



C20・06『失望から希望へ』

[今月の聖書]

この日、ふたりの弟子が、エルサレムから七マイルばかり離れたエマオという村へ行きながら、このいっさいの出来事について互に語り合っていた。語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。そこでイエスが言われた、「ああ、愚かだ。心のにぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。彼らは互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明して下さったとき、お互の心が内に燃えたではないか」。そして、すぐに立ってエルサレムに帰った。(ルカ 24:13-16, 25, 26, 30-33)

「そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。」(ローマ 5:5)

「また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。」(ルカ 18:1)

お元気でお過ごしでしょうか。今月のテーマは「失望から希望へ」です。全世界がコロナウィルスの蔓延のために恐れおののいています。コロナウィルス問題は私たちに「失望」を教えてくださいました。あらゆる知識も、科学も、医学も、またこれまで培ってきた芸術や文化、教会でさえも存在が許されなくなってしまったのです。人類がただの動物ではなく神によって創造されて尊厳を持って生きる者であるというイメージを破壊してしまいました。スーパーマーケットで食料は買うことができます。自宅でテレビを見たりインターネットで会話することができます。しかし本当の人間の生き生きとした生活はもはや存在しえないのです。

しかし聖書は、人間の真の命と喜びを回復する道を示しています。それこそ魂のリバイバルです。失望落胆している人にそっと近づいてくださるお方がイエス・キリストです。それは2000年前も現在も全く変わりません。時空を超えた神の愛のアプローチなのです。

このイエス・キリストに目覚めた時、私たちの人生は失望から希望へ、空虚から喜びに、無力から力へと変えられるのです。それは人生の転換点です。今月も久田徳三さんの新生の言葉と、彼の影響を受けて47年後にイエス・キリストに出会った瀧賢太郎さんの言葉をお伝えします。このような確信を持つ時逆境は必ずしも不幸とは言えないのです。試練と同時に逃れる道が備えられているからです。

神様の守りと魂の平和がありますようにお祈りいたします。

(お知らせ)

*6月も地区集会及び自由が丘水曜礼拝はお休みいたします。緊急事態宣言解除後の様子を見てまた再会できることを期待しています。

*ライトハウスからのチャペルメッセージはYouTubeでもご覧いただけます。YouTubeのアプリ、またはYouTubeのホームページでlighthousecfiと検索して下さい。チャンネル登録して下さい、今後配信される動画が簡単にご覧いただけます。またテレホンサービス(03-3717-5108)でもメッセージを聴くことができます。ご利用ください。

*「甦った人」のバックナンバーについてのお問い合わせは、直接手紙でお尋ねください。

〒661-0025 兵庫県尼崎市立花町 2-13-13 畑野研太郎先生

小田彰先生

Praise the Lord!

早速、CFIのCDをありがとうございました。先生、本当に達筆ですね。ライト・ハウスの動画メッセージの中で、小田先生の「おそれることはありません」の笑顔にどれほど慰められていることでしょうか。CDの中で畑野寿子さんと死刑囚の方との往復書簡の本「甦った人」のお話を聞き、この手紙を書いています。

2020年2月29日、コロナが発生し始めた時ですが、聖公会芦屋聖マルコ教会で「甦った人」再々出版感謝会があり、参加させて頂きました。

話は、長くなりますが、同封の「よろこびの泉」ご参照下さいますよう願います。私は、よろこびの泉(2019年11月号)の証しを読んで、非常に驚きました。死刑囚の久田さんによって伝道され、祈られた瀧賢太郎さんという方が、47年の年月を経て、2019年6月に神戸の垂水の教会で洗礼を受けたという証しでした。しかも、その方は、在オランダ日本大使館の一等書記官にまでなられたという超エリートの方です。こんな事があるのかと驚き、ぜひ、その方のお証しをお聞きしたいと思っていました。

昨年12月に岡山県の佐野眞智子さんというクリスチャンのお家に泊めてもらいました。佐野さんは、畑野寿子さんとは、とても親しい間柄で、天に召されたことをとても淋しく思っておられました。私は、以前、佐野さん宅のクリスマス家庭集会(40名近くが参加)で畑野さんにお会いしたことがあります。佐野さんから帰り際に「甦った人」の本を頂きました。2月に佐野さんからお電話があり、芦屋の聖マルコ教会の再々出版感謝会で洗礼を受けられた瀧さんのお証があるというのです。祈りつつその集会に参加させて頂きました。コロナの感染が怖いのでこの集会で最後だと教会員の方が、おっしゃっていました。

瀧さんは、「甦った人」の本に感動し、導かれましたが、亡くなる前の畑野寿子さんともお会いになられたということでした。久田さんから頂いた聖書もご持参されてきました。若くして司法試験も通っておられた瀧さんが死刑囚の久田さんと会った第一印象が「久田さんは、立派な方だと思った」ということでした。

パウロが牢獄の中からも伝道したようにどんな状況の中でも聖霊様が働かれる時、伝道のわざはなされること、祈りが地に落ちることは決してないことを改めて思われました。再々出版の「甦った人」の中に瀧さんのお証がそのまま掲載されています。

終末の足音が近づいてくるのが聞こえる今日この頃ですが、CFIのCDを聞いて、先生のメッセージを聞いて、最後まで伝道をあきらめないで、祈る者とならせて頂きたいと思っています。

東 裕子(神戸)

◎ 今月の編集にお手紙をいただいた皆さま(たのび)に本人の許可を得て掲載させていただきます。